

商店街名：築地口商店街振興組合（名古屋市）

キャッチコピー

港まちの文化と人がつながる、多世代交流の拠点へ

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2030年度頃）

港区は人口減少と高齢化が進む一方、築地口駅周辺には一定の人流が維持されている。大型店は減少傾向にあり、地域イベントや学校・福祉施設との連携が重要性を増している。地域住民の交流機会の不足が課題となっている。



◇商店街の姿

地域住民、とくに子育て世帯とシニア層を主要ターゲットとし、日常的に立ち寄れる交流拠点としての役割を強化する。文化・スポーツ・食を通じた多世代参加型イベントを展開し、地域の魅力を発信する商店街を目指す。

◇地域の状況（2035年度頃以降）

長期的には人口構造の変化が進み、地域コミュニティの希薄化が懸念される一方、港区の再開発や観光資源の活用により新たな来街者の増加が期待される。地域のつながりを再構築する拠点の必要性が高まる。



◇商店街の姿

商店街が地域の文化・交流・福祉を支える中心拠点として機能し、住民・企業・学校が継続的に関わる協働体制を確立する。広域の来街者を呼び込み、港区の魅力発信拠点として定着する商店街を目指す。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス） 【構想計画期間：2026年度～2030年度】

- ・ 地域ニーズの把握のため、地域プラットフォームを設置し、住民・学校・企業等から意見を収集する。
- ・ 既存イベント（ステージ・プロレス興業等）を基盤に、多世代参加型の新規事業を企画する。
- ・ 空き店舗・空きスペースの活用可能性を検討し、交流拠点化を進める。
- ・ 実施した事業の効果を検証し、翌年度以降の改善につなげる。
- ・ 地域団体との協働体制を強化し、持続可能な運営体制を構築する。

◎実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：地域の多様な主体の関係者を含む計8名

(2) 地域プラットフォーム

名称：みなとまち未来プロジェクト

目的：商店街のコンシェルジュという役割を意識して、地域住民のお困りごとをヒアリングのうえ地域プラットフォーム内で意見交換し、地域住民間の助け合いと交流を広げていく。また様々なイベントを開催しヒアリングを行う。

参画：商店主、地域住民、その他

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

西築地学区から、これまで実施してきたイベントを通して、子どもが参加できるイベントやシニア世代の外出機会の創出に繋がるイベント、空き店舗の活用についての要望を直接受けている。

◎将来ビジョンの具現化や地域ニーズの対応のために行う地域貢献活動の内容

現在実施している既存イベント（プロレス興業）を活用した地域交流の創出、地域住民参加型のステージイベント（ダンス・歌・盆踊り）子ども向けワークショップ・体験イベントのほか、高齢者の外出支援（イベント参加・見守り）、地域掃除活動、防災訓練への協力、学校との連携による地域学習・職場体験・地域文化の継承（盆踊り・地元芸能）を実施していく。実施にあたっては、商店街の存在感を高めるためSNSや広報誌を活用した情報発信を行う。